



農業技術センターニュース

目次	
茶葉の摘採時期と紅茶の収量・品質 …1	ウリ科遺伝資源についてキュウリ黄化えそ病抵抗性を調査しました …4
鮮度保持包装によるブロッコリー側枝の活用 …2	前作に使用した農薬の後作への影響 …5
高知県における新規需要米の収量性 …3	水耕によるニラの生理障害の再現ーカルシウム欠如ー …6

茶葉の摘採時期と紅茶の収量・品質

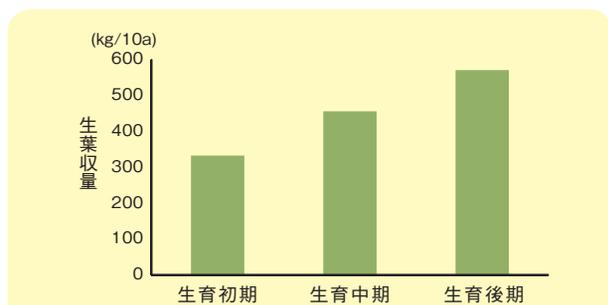


図1 摘採時期別の生葉収量

注) 出開度(最上位葉の展開が完了した新芽の割合)の違いにより、摘採時期を違えた3区を設定。生育初期区:出開度16%、生育中期区:同62%、生育後期区:同89%。



写真1 摘採時期別の紅茶の水色・から色

表1 摘採時期別の紅茶品質

区	形状	色沢	香气	水色	滋味	から色	合計
生育初期	20	20	19	20	19	19	117
生育中期	19	19	20	20	20	20	118
生育後期	18	18	18	19	18	18	109

注) 製茶品質各項目20点満点。

荒茶単価の低迷等から、二番茶の摘採を行わない農家が増加しています。農家の収入アップを図るためには、二番茶の活用が課題となっており、最近「やぶきた」を利用した紅茶の生産が始まっています。紅茶用品種でない「やぶきた」はカテキン含量等が少なく、紅茶特有の香味をだすためには、紅茶用品種と異なる栽培および製造法が必要です。

そこで、生葉生産および製造について検討を行っています。ここでは、二番茶の摘採時期を生育初期、中期、後期に分け、生葉収量と品質について調査を行いました。

生育後期摘採では、収量が最も多くなったものの、品質がやや劣りました。また、生育初期摘採では、品質は良かったものの、収量が少なくなりました。このため、二番茶を紅茶用として収穫する場合の摘採適期は、収量がやや多く、品質が良い生育中期と考えられました。

今後、萎凋や発酵の程度と品質の関係を明らかにするとともに、煎茶製造用ラインを活用した省力的な製造法等について検討する予定です。

(茶業試験場 邑田修三 0889-32-1024)